



また買い物ができるようになったー。そんな小さな幸せを守るために。

近隣に商店のない山あいに位置するのどかな集落。楽しげな音楽とともに移動販売車がやってくると、住民たちが集まり、楽しい会話に花を咲かせます。

「今日はどんな魚があるとね」「大根ばひとつ買っとこか」「今晚のおかずは煮付けがよかね」
小さなスーパーで交わされる会話はありふれたものですが、そんな日常の喜びを取り戻した人たちがいます。買い物に悩む皆さんが、再び手にした小さな幸せとそれを支える移動販売。この夏、わたしたちのまちを走り始めた移動販売車を運行する西山健治さんにお話を聞きました。

■ 移動販売がこの夏スタート

6月3日（木）豊内のマルエイ甲佐店で、同店を拠点とする移動販売車の出発式が行われました。

移動販売では、冷蔵庫を備えた軽トラックを使って、刺身をはじめとした魚や肉、野菜、惣菜、果物、菓子などの食料品と、トイレットペーパーやハンドソープなどの日用品を中心に約450品目を取り扱っています。荷台の棚に並ぶのは、まるでまちのスーパーのような品々です。希望の商品がなくても、注文すれば次回の訪問時に届けてくれます。

町内を回る移動スーパーの名前は「とくし丸」。全国で移動スーパー事業を手掛ける株式会社とくし丸（徳島市）と株式会社マルエイ（玉名市）の協力を得て、販売パートナーの西山健治さん（熊本市）が運行しています。

■ 元気と笑顔を届ける

毎日の買い物に苦勞している高齢の人や身体の不自由な人にとって、自宅前で直接商品を見て選ぶことができる移動販売は、買い物の楽しみも提供してくれます。

本町でもおよそ3人に1人が高齢者となっている現在、バスでの買い物や荷物を持って数百メートル歩く



移動販売ルート 販売時間：午前10時～午後5時

● 移動販売ご利用に関するお問い合わせ先
(株) マルエイ / 本部 ☎0968-71-0072

ことが難しい人も増えていきます。少し前まで各地に点在していた小さな商店は時代とともに姿を消し、日用品の買い物の場が失われただけでなく、店を訪れた地域住民と店主との会話も無くなりました。本町で移動販売車が走り始めて約3カ月。販売車が止まる先々には、かつて買い物といっしょにあつた住民たちの笑顔とにぎやかな会話が戻りつつあります。

■ 地域コミュニティの再生や見守り活動にも期待

西山さんが運行する移動販売車は、3つのルートで販売を行っています。仕入れは拠点となるマルエイ甲佐店で行い、午前10時に出発。その日のルートに沿って、各地を巡回しながら商品を届けます。利用者の自宅前で販売を始める、自然と人が集まります。移動販売が来るようになってから、久しぶりにご近所さんと話すようになったという声もあるんだとか。「同じルートを毎週2回通るので、利用者の変化にも気が付きますね」と話す西山さん。

地域コミュニティの再生と見守り活動の効果も発揮し始めている移動販売。甲佐の各地に笑顔を届けるため、商品を積んだ軽トラックは今日も元気に走ります。

移動販売事業者の声



移動販売員
西山 健治 さん
(熊本市)

■皆さんにいただく「ありがとう」
がやがいに

子どもの頃、祖母に連れられて、近所にやってくる移動販売に通っていた思い出があります。買い物を終えた祖母がとても喜んでくれたのがずっと心に残っていました。そのため移動販売の仕事には数年前から興味を持っていて、今回、家族の協力もあり、思い切って飛び込んでみました。

販売を始めてもうすぐ3カ月になりますが、甲佐の皆さんには温かく迎えてもらっています。利用者の皆さんに声を掛けていただくことも少なくありません。以前はバスやタクシーを使っていた物に出かけていたというおばあさんから「移動販売のおかげでアイスを買えるようになって助かっている」という声もいただきました。楽しそうに買い物をする皆さんからいただく「ありがとう」「がんばってね」の言葉

に私も毎日元気をもらっています。

■地域との信頼関係を結ぶ

毎週お買い物される皆さんの顔や好みの品も少しずつ分かるようになってきました。

「今日はあのおばちゃんに来てくれるかな。甘いものが好きだと言ったから、お団子を準備しておこう」とか「あのおじいちゃんはこの商品を注文してくれたから忘れずに持っていかないな」とか、皆さんの喜ぶ顔が見たくて毎日の準備も楽しくやっています。利用者のニーズに寄り添って商品を選んだり、外に出歩くのが難しい方には玄関まで商品を届けるなど、できる限りの心配りを大切にしています。

また、いつもの販売場所でも顔が見えないと何かあつたかなと心配になります。同じルートを通るからこそ気付けることだと思いますが、地域の見守り活動としても貢献していければうれいですね。

移動販売は、利用者の顔が見える距離感が魅力だと感じています。御用聞きのように細やかな配慮で、利用者の皆さん一人一人に寄り添いながら、少しずつ信頼関係を築いていければと思います。



1、2、3_ 荷台の棚や冷蔵庫に多くの商品が並ぶ移動販売車 4_ 商品の仕入れはマルエイ甲佐店で行い、移動販売売上の一部が支払われる

利用者の声

いくつになっても買い物ができる喜びを届けたい。この夏、そんな思いを乗せて走り出した移動販売車。集落生活を支える力強い存在には、多くの皆さんから喜びの声が上がっています。

地域住民にとって日常生活の大切な場となった週2回の移動販売。そこでつながる地域の人たちの声をお届けします。

コロナ禍の「新しい生活様式」

コロナ禍で出歩くことをためらうようになりました。運動を兼ねて買い物に出掛けることもありますが、感染対策には人一倍気を使います。移動販売が軒先まで来ていただけるので、感染リスクを抑えることができ大助かりです。



坂井 容子さん (岩下一区)

移動販売がつなぐ地域の輪

移動販売を待つ時間は、ご近所さんたちとのおしゃべりを楽しんでいます。みんなで楽しくお買い物ができるようになってとても助かっています。

販売員さんとも仲良くなり、毎週の買い物時間が待ち遠しいですね。



太田 美智子さん (小鹿区)

また買い物できる喜び

足が悪くなってからは、買い物は家族などをお願いしていました。移動販売のおかげで自分一人で買い物ができ、商品を選ぶ楽しみを思い出しました。

欲しい商品を準備してもらえるのも嬉しいサービスです。



上田 トミ子さん (世持区)



買い物弱者を支える 事業者を助成

町地域振興課
野見山 恵 参事
(熊本市)



食料品や日用品などの生活必需品を扱うお店が失われた集落では、まちのスーパーまでの移動が難しい「買い物弱者」の支援が必要不可欠です。町では、コロナ禍での「新しい生活様式」を取り入れた日常生活の実践と併せて、外出が難しい高齢者などに買い物の機会を提供するため、移動販売事業に新規参入する事業者への助成を実施しています。ぜひご活用ください。

●お問い合わせ先
町地域振興課 ☎096-234-1154